

令和4年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

県南会場

科目 ②子どもの権利条約

- ◆ 子どもの権利条約は聞いたことはありましたが、条文までは知りませんでした。ある中学校で校則を廃止し、生徒憲章を作ったそうですが、それは責任も伴う訳で、子どもたちが真剣に物事に関わっていると感じました。与えられた物をただ受け入れるのではなく物の本質を見極め行動することはとても重要であり、これからの子どもには自己肯定感や有能感を持って生きてほしいと願うとともに私自身も子どもの権利を認められる大人になりたいと思いました。
- ◆ 子どもにも権利があって当然のことであり、子どもが自由な考えで自分らしく生きていくために子どもと接する大人も柔軟な考えで関わるのが大切だと思います。講義の中で子どもの権利に関する現状が進んでいないという話があり、私は子どもと同じ目線に立って、意見や思いを大切に捉えていきたいと思います。子どもが快適と思う環境をできるだけ整え、思いに寄り添い、安全で楽しい児童クラブを目指していきたいです。
- ◆ 日本では生徒と先生が対等の立場にあることはほぼ無く、自分の意見を言うより周りに合わせた方が評価される傾向にあると思います。パリの学校では、生徒と先生が対等に話し合って学校のルールや改善点などを決めており、生徒の意見を周りの大人たちがしっかりと受け止めているのが印象的で子どもの権利を尊重していると感じました。今後子どもたちの声に耳を傾け、理解することを意識していきたいと思います。
- ◆ 学生時代に子どもの権利条約について少々触れたことはありましたが、深い内容については触れてきませんでした。条文を読んでみると、子どもに大人と同等の権利を保障することが主たる内容と感じました。しかし、普段接している子どもたちが、この条約のとおりに行動するのはどうだろうかと考えます。確かに子どもたちにはそれぞれの考えがあり、それを実現したいという気持ちは感じ取れますが、学童保育のように全体的に幼い子どもが多い現状では困難です。そのため、精神的に成長できるような支援をしながら、この条約に沿った放課後児童クラブ運営ができるように考慮していきたいです。
- ◆ 子どもの権利を守る約束事について学びました。子どもたちは自由に自分の思いを表明することができます。それを私たち支援員は言葉だけでなく、その背景にある思いや意見までも「聴く」ことが求められます。その時、大人の都合に合わせるのではなく、子ども目線になり柔軟に対応しなければなりません。子どもにとって一番良い方法は何かと、日々を振り返ることも必要だと感じました。子どもたちの幸せを守るため、「聴く」姿勢を忘れずに行動したいと思います。